【ポスターセッション】

介護の視点からContinuing Care Retirement Community (CCRC)を再考する

ーアメリカでの現地調査からー

お茶の水女子大学博士後期課程　　遠藤希和子（008715）

キーワード３つ：CCRC　高齢者向け住宅　地域包括ケアシステム

１．研 究 目 的

地域包括ケアシステムにおいて特徴的な政策は「サービス付き高齢者向け住宅」を在宅と位置づけ包括的なケアシステムの一部としているところである.サービス付き高齢者住宅とは「高齢者の住まい法」の改訂に伴い2010年10月より３種類の高齢者向け住宅を統合し,国土交通省と厚生労働省が定める規定に準じて経営される高齢者向けの住宅のことである.

欧米では,施設でもなく一般的な住宅でもない,介護･福祉サービスへのアクセスが容易な高齢者向け住宅を積極的に政策に取り入れてきた.近年,日本でも話題となっているCCRCも,1970年代後半にアメリカで誕生したモデルである.CCRCの形態は様々であるが,すべてのCCRCは自立度の高い高齢者用住宅,インデペンデントリビング（Independent Living,以下IL）から，アシステッドリビング(Assisted Living,以下 AL)，ナーシングホーム（以下,NH）まで継続的なケア体制が整っている点で共通する.

地域包括ケアシステムとの兼ね合いからもこのCCRCモデルは注目を浴び,最近では「日本版CCRC」という言葉が頻繁に使われる.日本版CCRCは都心部からの高齢者の移住によって地域創生が実現すると考えている.しかしながら，CCRC が具体的にどのような機能を果たせるのかという議論が十分におこなわれているわけではない.学術的にも議論は進んでおらず日本版CCRCはもとより，CCRCの実態や重要な要素について介護の福祉の観点から行われた調査・研究は極めて少ない．そのため、本研究は実態把握が十分にされていないCCRCについて,現地調査結果から分析をおこないCCRCに不可欠な要素を明らかにすることを目的とする.

２．研究の視点および方法

2014年3月にハワイ州ホノルル市にあるCCRC，カハラヌイ（Kāhala Nui）にて現地調査を行い,公表されている資料に基づき個別事例の分析をおこなった.本調査ではハワイ州がアメリカの平均を上まわる高齢化率であることと,高齢者人口が急激に増加している地域であることから調査地区として選定し,ハワイ州に登録された3つCCRCのうちから調査対象を１つ選択した.

３．倫理的配慮

倫理的配慮については、日本社会福祉学会の研究倫理指針に則り、引用・参考文献を明記した。また、データは全て公表されたものであり、個人情報等に関する記述がないことを確認したうえで使用した。本調査は「日本学術振興会特別研究員奨励費」を受け実施したことを明記した。

４．研 究 結 果

CCRC において重要なのは入居時の契約の種類であり,以下の４つの契約タイプがある.

1.生涯契約[Life-Care Contracts(Type-A)]

2.限定契約[Modified Contracts (Type-B)]

3.個別払い契約[Fee-for-Service Contracts (Type-C)]

4.賃貸契約[Rental-contracts]

カハラヌイの場合タイプ B の契約方式を採用しており,同じ敷地内に併設している AL と NH があるケア棟（Hi’Olani Care Center）に利用者が移る際には新たな契約を結び、サービス料の月額が変わる.

CCRC に入居する大きな利点は,介護が必要となった時に自分のことをよく知っているスタッフと一緒に将来受けたいケア,受けられるケアについて相談しながらケアの方向性を定めることができることである. 今回の調査で明らかになったのがソーシャルワーカーの存在の重要性である.カハラヌイに常駐しているソーシャルワーカーは,高齢者分野のソーシャルワークのスペシャリストであり,利用者の生活面だけではなく介護ニーズの質的変化やそれに伴う制度説明をおこない,利用者の理解と自己決定を促す役割を担っている.IL では自立度が高い利用者に対しサービス提供面でジェネラルが対応し,介護が必要となった時にソーシャルワーカーが介護福祉の知見に基づく支援を行うことこそが継続するケア,CCRC を可能にするのである.

また,敷地内に全ての介護レベルに対応する機能が備わっていることより,介護レベルが変化する不安定な時期であったとしても安心して自宅に住むことができる.

5. 考 察

日本の CCRC 議論ではケアが継続的に受けられる保証やエイジインプレイス（age in place）の考えよりも,高齢人口の都市部から地方への住み替えによる地域創生に話が集中しがちである.元気な時から CCRC に移住し,新しいコミュニティで暮らし介護が必要となった時もそこで暮らす,そのために早期住み替えをするというのは,正に CCRC の特徴ではあるが,それよりも重要なのは慢性的に介護必要となった時に,どういった質の介護を受けることができるかが CCRC 契約時に明確にされていることである.介護・福祉・医療について議論せずに日本型といえども CCRC を標榜することはできないのではないだろうか.